

放送日 平成30年7月2日（月）
担当者 市民課 志村 敦

おはようございます。市民課長の志村 敦です。

私は、本年4月から市民課を初め、団地住民センターやエルフィンパーク市民サービスコーナーの皆さんと、市役所業務の最前線で日々公務に励んでおります。

私どもの業務は、戸籍・住民基本台帳関係の手続きや証明交付、市民の声をはじめとする各種広聴活動、町内会・自治会対応、地区センター等の住民活動拠点関係、交通安全・暴力追放・防犯活動、人権擁護と平和の推進に至るまで多岐にわたり、市民の皆様と直接お会いすることが、恐らく市役所で一番多い部署であります。

適切かつスムーズな業務対応はもちろんのことですが、北広島市役所に対する印象や評価までもも上下させてしまうことにつながり、最前線に立つ職員として「北広島」という大きな看板を背負った振る舞い、仕事ぶりを心掛けていくことが大切であると考えております。

私どもの部署は「市民課は一つ」を合言葉に、一致団結して公務に励む最高のメンバーに恵まれておりますが、まずは自分自身から率先垂範の思いで、励んでまいりたいと決意しております。

さて7月は、飲酒運転根絶、スピードダウンと居眠り運転の防止、全ての座席のシートベルト着用を運動の重点とした「夏の交通安全運動」を実施します。

また、春からは交通安全意識の高揚と事故防止に向けて自動車運転中に昼間点灯を行うデイ・ライト運動も推進しています。

事故のない安全で安心な交通社会を目指して、多くの市民の皆様にご理解とご協力をお願い申し上げます。

特に市職員の皆様は率先したご協力をお願い致します。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月3日（月）
担当者 西部出張所 佐々木 正範

おはようございます。西部出張所長の佐々木正範です。

私には、高校3年生の息子がいます。現在、進路について悩んでいます。あまり、勉強が得意ではないので、進学ではなく、就職を考えています。そこで私に向けた質問が「仕事とは、何か」です。正直、少し戸惑いながら、いろいろと話し合いました。「食べるため」「趣味のため」「家族を養うため」「健康のため」等々、どれもこれもが正解であり、決まった答えはありません。

しかし、これから夢を持って社会に羽ばたかせるには、何か物足りないと思い、次のように言いました。「自分のしたことで人が喜ぶとうれしいだろう。仕事は、人を喜ばし、自分もうれしくなりながら、自分の自由となるお金を貰うことだ、いいだろう」と伝えました。いろいろな経験や人の話から辿り着いたひとつの答えです。決して仕事は、嫌なことをして、その見返りにお金をもらうことではありません。

息子の反応は「今まで先生や先輩などからいろいろと聞いたが、そんな考えは初めてだ」と、普段は、父親である私の話なんかまともに聞きませんが、少なくともその瞬間だけは、目を輝かせていました。

皆さんが使っているボールペン、パソコン、イス、全ての物が、いかにしたら喜んで使って貰えるかを考えて作っています。一大プロジェクトの日本ハムボールパークも、どうしたら人に喜んでもらうかが、最重要課題です。どんな仕事も人に喜んでもらうためとなっています。

我々自治体職員の仕事も、地方自治法に謳われているとおり、住民の福祉の増進を図ることが目的であり、まさに人に喜んでもらう仕事です。直接的にせよ間接的にせよ、喜んでもらうことでやりがいを感じます。

時には、なかなか思うようにいかず、落ち込むこともあると思いますが、我々の仕事は、市民に喜んでもらい、自分もうれしくなれるのだという思いで乗り切ってください。

挨拶には、相手を認めるという力があります。人は認められると喜びを感じ、元気になります。さあ、今日も1日、明るく笑顔の挨拶で、職場さらには市民に元気をもたらし、誰もが住みたいまちづくりを進めましょう。

放送日 平成30年7月4日（水）
担当者 大曲出張所 高橋 正弘

市民の皆様おはようございます。大曲出張所の高橋と申します。

大曲出張所、東部・団地地区の市民の皆様にはあまりなじみのない部署だと思います。出張所の事務は、本庁の各部署で行っている戸籍・住民票・所得証明などの各種証明書の発行や税金・保険料などの受取りや各種届出・申請書などの受付や書類の預かり、パンフレットなどをお渡しするなど、短時間で済む業務から長時間にわたる業務まで多様な事務を取り扱っており、それらお本庁の各部署へ提出しております。出張所では職員6名にて、お客様の用件により担当者が変わることなくマンツーマンにて窓口対応させていただけるよう、日々、努力しております。職員、一丸となり対応・サービスさせていただいておりますので、大曲方面にお越しの際は、是非一度、お越しいただけますようお願いしております。

また、職員の皆様おはようございます。大曲出張所職員一同、本庁の職員の皆様方には、いつもお世話になっております。各種届出や申請書などの不明な点については、いつも電話によりの確に対応していただきありがとうございます。また、新たな事業・業務に対しても、様式、概要説明、注意事項等、詳細に説明するために来所していただきありがたく感じております。ただ、出張所の窓口業務をしていると、特に感じるのが各種届出や申請書のお客様の記載する枚数です、各部署では1枚かもしれませんが、出張所では2枚も3枚書く用件の人が多く高齢者の方は大変苦勞しております、優秀な職員のあふれんばかりの知恵を結集し、よい方法を見出し、事務改善を図っていただきたいと強く願っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月5日(木)
担当者 西の里出張所 石黒 哲明

おはようございます。西の里出張所の石黒です。

今日は、西の里出張所と西の里公民館について紹介します。

西の里出張所は、再任用主査と非常勤職員、私の3人で、日々協力して業務にあたっています。

業務は、住民票、戸籍謄本などの発行から、イベントの整理券の配布まで幅広く、市の総合窓口的な役割を担っています。

また、さまざまな事業への問い合わせや、申し込みも多く、その反響がダイレクトに伝わってきます。

特にミックスペーパーの回収袋の配布や、古着、使用済み食用油のリサイクルBOXの利用が多く、環境への意識の高さが伺えます。

このほか、地域の困りごとの相談や苦情も受け付け、その都度、関係部署へ伝達し、対応をお願いしています。

どこの部署も、できることはすぐに対応していただけることが多く、地域の方々からお礼の言葉をいただくこともあります。各部署の素早い対応については、西の里出張所職員一同、感謝しており、この場を借りてお礼を申し上げます。

また、新規の事業や年に数回しかない業務については、問い合わせをすることもあるかと思しますので、よろしくご指導をお願いします。

さて、併設している西の里公民館には、図書館と学童クラブも設置されており、午前中は高齢者の方々が麻雀やカラオケを楽しみ、午後からは学童クラブの元気な子供たちの声が聞こえ、終始にぎやかで、地域の活動拠点としての機能をはたしていると感じています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月6日（金）
担当者 環境課 阿部 泰洋

おはようございます。市民環境部環境課長の阿部泰洋です。

今日は、昨年11月から新たに始めたミックスペーパーの拠点回収についてお話ししたいと思います。

以前は、普通ごみとして出され、最終処分場に埋め立てていた鼻をかんだ後のティッシュや封筒、はがき、ダイレクトメール、パンフレットなどの雑紙をミックスペーパーとして回収しています。ホチキスやセロハンテープがついているものも、そのまま回収できます。

回収の方法は、市役所、各出張所を含む市内9か所で専用紙袋の配布を行い、その紙袋にミックスペーパーを入れ、ホチキスやガムテープで紙袋の口を閉じ、拠点回収場所にある回収バッグに入れてもらいます。

回収したミックスペーパーは、工場で洗浄・殺菌された後、トイレットペーパーやティッシュとして加工され、再生製品として生まれ変わります。

普通ごみに占めるミックスペーパーの割合は意外に多く、ミックスペーパーを分別していただいた市民の方からも、赤いごみ袋の普通ごみの減量に効果があるという感想をいただいています。

ごみを埋め立てる最終処分場には限りがあります。また、数年後には、広域によるごみの焼却施設が稼働する予定です。埋め立てるごみ、将来燃やすごみを少しでも減らし、ごみの分別、リサイクルを推進していきたいと思いますので、職場でも、家庭でも、ごみの分別にご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月9日（月）
担当者 福祉課 奥山 衛

おはようございます。福祉課長の奥山 衛です。

市民の皆さんが安心して暮らしていくためには、私たち行政の取組はもちろんのことですが、多くの市民の方々の協力が必要です。一昨年、この朝のスピーチで所管業務の概要をお話ししましたが、今日はその所管業務のうち市が事務局を担っている「保護司」さんのことを少し詳しくお話しいたいと思います。

「保護司」の皆さんは、犯罪や非行に陥った人が地域社会に戻って再び過ちを犯すことなく、早期に更生できるように援助をしたり、犯罪や非行の予防を図る役割を担っています。

全国には約4万8千人の保護司の方がいますが、現在、北広島市では8名の市民の方が法務大臣からの委嘱を受けて日々活動をされています。身分は非常勤の国家公務員ですが、無給であり、一定の実費弁償金が支給されるのみの実質はボランティア的なものです。

具体的活動内容は大きくは3点ほどあり、地域社会に戻った方と定期的な面接により、指導・助言を行う「保護観察」。少年院や刑務所から、地域社会に戻る際の様々な受け入れ体制の調整を行う「環境調整」。犯罪や非行を未然に防ぐための「犯罪予防活動」です。

毎年、今年7月は犯罪予防活動の強化月間で、市内の歩道橋やエルフィンパークに横断幕を設置し、市内小中学校や市内民間企業を保護司の皆さんで手分をけし、ポスターや啓発物品などを配布しています。また、翌8月には「ふるさと祭り」の会場において、保護司の皆さん一人ひとりが犯罪予防の啓発活動を行っています。

この保護司の皆さんをはじめ、民生委員児童委員など、市には多くの市民が地域福祉推進のための活動を実践いただいております。その結果、行政だけではカバーできない部分を支えていただいております。市職員としてはその市民の方々への感謝の気持ちと、常に協働して仕事を行っていくという意識が非常に重要であると感じているところです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月10日(火)
担当者 高齢者支援課 三上 勤也

おはようございます。高齢者支援課長の三上勤也です。

突然ですが、「胴上げ」「騎馬戦」「肩車」という言葉からどういったことを連想されるでしょうか。

これは、1人の高齢者を何人の生産年齢人口で支えているのかという人口構造の比率を例えたものです。

東京オリンピックが開催された昭和39年頃は、高齢者1人に対し64歳以下が約10人と「胴上げ」ができるくらい的人数比でしたが、四半世紀が経過し、年号が昭和から平成に変わった頃は、その比が1対5の「騎馬戦」となり、団塊の世代のすべてが後期高齢期に到達する2025年には1対1.8となり、さらにその後も高齢者を支える人口が減少し、「肩車」の形に近くなるものと見込まれています。

高齢者が増加する中において、老化現象などにより、介護が必要となる方や認知症の方が増えてしまうことは、やむを得ないところですが、少子化の影響で生産年齢人口が減少し、様々な分野において人材が不足している現状において、介護分野については、仕事の内容に対するイメージや待遇面などから人気が低いと言われていて、特に人材確保が困難な状況であり、今後より一層難しくなっていくことが見込まれていますので、昨年度から市独自の研修会を実施し、また、介護事業者合同による就職説明会を開催しています。さらに今年度からは、市内の介護事業所等に就労する方に対し、支援金を支給することとし、人材確保を支援しています。今後は、外国人技能実習制度の活用、ロボットやAIの導入を検討しなければならないものと考えています。

このように人材確保に苦慮している状況ですので、ご家族、ご親戚やご友人に介護の仕事に興味がある方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただければと思います。

話しは変わりますが、認知症は発症する20年くらい前から脳の萎縮が始まっていると言われてしますので、まだ若いから自分は大丈夫という、油断は禁物です。

誰しもが、家族に迷惑を掛けたくないと考えていると思いますが、年老いて、誰かの介護を受けないと日常生活が送れなくなっても、先ほど申し上げたとおり、介護従事者が足りない状況でありますので、介護サービスを十分に利用できないかもしれません。

こういったことから、市民一人ひとりが若い頃から、規則的な睡眠を取り、食べ過ぎ飲み過ぎに注意し、定期的な運動によるストレス解消など、介護予防や認知症予防の生活習慣を身に付けていただけるよう、市職員が良い見本となっただきたいと思いますので、今一度、ご自身やご家族の健康管理について、点検・改善を試みていただきますようお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月11日(水)

担当者 高齢者・障がい者相談担当参事 柄澤 尚江

おはようございます。高齢者・障がい者相談担当参事の柄澤です。高齢者や障がい者に関わる様々な相談に対し、制度や組織の縦割りではなく横断的な支援体制を構築していくための新たな部署ができて2年目となります。

さて、皆さんは日頃の電話や窓口の対応で、相手の方から「誰かに見張られている」とか「電磁波で攻撃されて苦しい」「壁から声が聞こえる」等と言われたり、同じ内容で同じ方から何度も問合せがくるとか、酔って怒鳴る方などの対応に困ったことはないでしょうか。私たち、高齢者・障がい者相談担当では、こうした方々と直接接したり、ご家族や近所に住む方々からのご相談を受けることが多くあります。ひとつの事例を紹介します。60代の父親が別の用件で市役所を訪れた時に窓口で最初に対応した職員に「実は30代の息子の仕事が長続きせず、昼夜逆転の生活で独り言ばかり言って会話にもならず困っている」という話をされました。私は最初に対応した職員から連絡をもらい、すぐに父親と面談し、数か月後に息子さんの精神科受診につなげることができました。この息子さんは、父親が亡くなった後もグループホームで生活しながら日中は福祉的就労ができるまでに回復しています。この事例のように最初に対応した職員が相手の困りごとに気づき、自分の業務担当外のこととして終わらせることなく次の部署につなげたことで、このケースは適切な治療と支援を受けることができるようになりました。精神疾患や認知症は早期発見と早期治療、早期支援が大切です。職員の皆さんの気づきと横の連携が重要になりますので、今後も心配な方がいた時には高齢者・障がい者相談担当のスタッフにつないでください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も一日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月12日(木)

担当者 健康推進課 尾崎 英輝

おはようございます。健康推進課長の尾崎です。

今日は「北広島市に住む」ということについてお話ししたいと思います。みなさんはどちらにお住まいですか。北広島市内に住んでいる方が多いとは思いますが、その他、札幌など近郊にお住まいの方もいると思います。

地方自治体の役割は、住民サービスの向上、住民福祉の増進を図ることであり、私たち市職員は全体の奉仕者として職務に専念することでその役割を果たしています。

一方、住民サービス、住民福祉は行政のみで行うものではなく自助・共助の考えのもと、町内会や地域の様々な団体などの活動も重要であり、その役割も大きくなってきている中、職員が市内に住み地域活動に参加することの意味は少なくないように思います。

例えば、町内会の一斉清掃や夏祭りといった行事に参加し、子育て世代のお父さんやお母さん、子どもたちや人生の大先輩である高齢者の方々と一緒に作業をし、話をするのは、高度化・複雑化する住民ニーズを自然と皮膚感覚として感じる事が出来、また行政職員として必要なコミュニケーション能力も知らず知らずのうちに身につけていくのではないかと感じています。

また、現役時代から地域に居場所を見つけておくと、退職後、することがなく急に老け込んでしまうこともなくなるかもしれません。

様々な理由で市内に住むことができない方もいると思いますし、地域での活動も自主的な判断によるもので強制されるべきものではないと思いますが、もし可能なら北広島市に住み、地域に居場所を見つけることは、市にとっても自分自身にとっても意味のあることだと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月13日（金）

担当者 保険年金課 渡辺 広樹

おはようございます。保険年金課長の渡辺広樹です。

本日は、保険年金課で担当しています国民健康保険業務の現況につきまして、お話しさせていただきます。

国民健康保険とは、会社員などの被用者保険や後期高齢者医療制度などの医療保険に加入されている方や生活保護を受けている世帯の方などを除く、すべての人が対象の医療保険です。本市の平成29年度末における国民健康保険の被保険者数は1万2,980人、加入率は約22%となっています。国民健康保険は、この3月までは市町村が保険者として運営全般を行ってききましたが、4月からは北海道が財政運営の責任主体として中心的な役割を担い、市町村とともに国保の運営を行っています。市町村の業務は、資格の管理や保険給付、保険税率の決定や賦課・徴収、保健事業などこれまでと同様の業務を引き続き行うことになっています。本市の国保加入者にとっての変更点としては、高額療養費の多数回該当が道内転居の場合は通算されること、葬祭費の支給額が道内の統一額である3万円になったこと、保険証の記載内容が変わること、保険税率が改正されたことなどがあります。

新たな国保制度から3か月が経ち、担当職員におきましては、都道府県単位化に伴う新システムの取扱いや事務処理方法の変更などこれまでと違う中で、先月6月の当初課税事務を終え、国民健康保険税納税通知書を送付したところです。また、毎年7月は保険証の一斉更新の月であり、現在、発送準備が進められています。

今後は、北海道において事務の効率化、標準化が図られ、現行の見直しや改善が求められることとなりますが、関係部局のご協力をよろしくお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月17日(火)
担当者 子ども家庭課 高橋 陽子

おはようございます。子ども家庭課長の高橋陽子です。

4月から保育課と児童家庭課が合併して子ども家庭課になりました。ようやく新しい課の名前に慣れてきたところです。

さて、北広島の出生数はここ数年300人前後で推移しています。昨年度末のゼロ歳児人口は308人でした。年齢ごとの人口分布をみると、残念なことです、中学生・高校生よりも小学生が少なく、小学生よりも就学前児童が少ない逆ピラミッド型になっています。もっと細かい年齢刻みを見ても同じ傾向です。今年の1年生が456人ですので、社会増減を見込まないとしたら、6年後には今の7割弱になることとなります。

最近、子どもの居場所についてよく話題になります。かつては、大人が子どもの居場所を用意しなくても、放課後に隣近所の子どもたちが集まって外遊びをしたり、地域の子ども会で行事を企画したり、それに参加したりなどがありました。私自身もそうして育ちました。楽しい思い出、ちょっと苦い思い出など色々ありますが、どれも良い経験でした。皆さんにもあると思います。しかし、子どもの数の減少と共に、そういった活動も少なくなってきています。

子どもにとって遊びは、最も自主的で真剣な活動です。何をして遊ぶか、誰と遊ぶか、いつまで遊ぶかなど、唯一その全般を子どもが自ら決めることができるものです。一人遊びや見ていることから始まり、集団での遊びを通して、徐々に他の子と違うところ、共通するところ、自分の個性に気付き、ルールを守ることや協力すること、競い合うことを通して成長していきます。また、遊びにおける成功や失敗の経験を通して、ほかの人の視点を理解し、加減がわかるようになっていきます。

子どもが減少している今だからこそ、子どもの遊び場や居場所づくり、地域での関わりの必要性がますます高まってきていると感じています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月18日(水)

担当者 こども発達支援センター 濱田 真吾

おはようございます。こども発達支援センターの濱田です。今年度からこども発達支援センターは、機構改革によってこれまでの保健福祉部から子育て支援部のこども発達支援センターとなりましたが、利用されている就学前の乳幼児の保護者からは、親しみと共感を得られています。

職員の皆さんは、発達に遅れや障がいのあるお子さんの子育てとは、何か特別なものではないかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、基本的には変わりません。

ただし、通常の子育てであれば簡単に跳び越えてしまうようなステップを、より細かく分けてあげることと、数多く積み重ねることによって乗り越えられるような工夫が必要です。そして、お子さんの気持ちに寄り添い丁寧に支援をするのですが、ご家族が納得して取り組むことができるような説明と同意が欠かせません。かつての「障がいの受容と克服」という硬い表現ではなく「注意深く配慮された子育て」が現在の時流となっています。

さて当センターは、現在北進町の福祉センター内で運営しています。しかし福祉センターは、築37年が経過し老朽化と狭あいの問題のため、栄町の北広島郵便局の隣接地に建築中で、来年の5月に完成する予定のビルに移転することになりました。

現在、1年を切った施設移転に向けて、忙しく準備を進めております。移転に際しては施設も新しくなりますが、事業の中身も充実できるよう検討してまいります。

移転後は、職員の皆様も気軽に足を運んでいただき、是非とも施設内をご覧になっていただきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月19日(木)

担当者 地域子育て支援センター 橋本 なつみ

おはようございます。地域子育て支援センターの橋本です。

さて皆さんに地域子育て支援センターの活動をお話させていただきます。地域子育て支援センター「あいあい」は、「人と出会い、育ちあい、支えあう子育て支援」をコンセプトに、子育て相談や子育て広場の施設開放、子育て講座の開設などを行い、子どもと子育て中の家庭を支援しています。

子どもが生まれたとたん、今までの生活リズムが一変します。2～3時間ごとの授乳やおむつの取り換え、それが昼夜問わず続きます。子どもに合わせた生活をしなくてはなりません。眠たい時に眠れず、起きたくないのに起こされ、本当に体力勝負です。でも、子どもの寝顔に癒され、笑顔に元気をもらうことで、子育てを頑張ることができます。2～3か月たち、外に出られるようになると、昔は「公園デビュー」今は「子育て支援センターデビュー」です。「あいあい」に初めて来たお母さん、お父さんは、とても緊張した面持ちですが、何度か来るとほかの親子とも顔見知りになり、挨拶を交わしたり、一緒に遊んだりできるようになります。「あいあい」にきてよかった感想として、「大人と話すことができ楽しかった」という声です。日中赤ちゃんと二人きりで過ごすことが多いお母さん方は「あいあい」にきて、スタッフとおしゃべりをしたり、周りの人たちと言葉を交わしたりすることで、リラックスするようです。

また、あいあいまで足を運べない親子に対して、「ふれて」や「ともに」にスタッフが月1回出向き、親子あそびの紹介や子育て相談に応じる出前講座を実施しています。様々な子育て支援に関する情報を子育てガイドにまとめていますので、困っている子育て家庭の方がいらしたら、ぜひ教えてほしいと思います。

子どもの虐待に関するニュースが後を絶ちません。孤立した子育てがなくなり、子育ての悩みを気軽に話せる環境や切れ目のない支援を行っていきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張らしましょう。

放送日 平成30年7月20日（金）
担当者 すみれ保育園 塚崎 智美

おはようございます。すみれ保育園園長の塚崎です。

今年は10年振りに、保育所保育指針が改定されました。

子ども達一人ひとりに、より丁寧に関わる保育が大事になっています。一人ひとりの子ども達が、現在をより良く生きる権利を守らなければならない中、ニュースでは虐待により、幼い命が奪われる出来事が後を絶ちません。先日も5歳の女の子の幼い命が奪われました。モデルの体形にするために、食事は一日に一食しか与えられず、朝4時に起きて風呂掃除。ひらがなの練習・・・と一日のスケジュールを与えられ、「遊ぶのはアホのすることだから」との言葉が子どもの口から出るなんて、なんてむごいことでしょう。覚えた文字で「ゆるしてください。お願いします。」と、心の叫びをしるしてしていました。大変つらい事件です。

今、保育園では5歳児の子ども達が、ひらがなに興味をもち、自分の名前を書いています。先日、一人の男の子が皆で体験したいいちご狩りの出来事を、折り紙を折って作った2つのいちごを貼った紙に、「たのしかった」と覚えたての文字で書いて、プレゼントしてくれました。いちご狩りの体験がとても楽しく、心に残ったのでしょうか。一生懸命に絵も描いてくれた子どもの優しい気持ちが大変嬉しく、職員室に飾ってあります。

保育園は家庭と共に、子どもが生命を輝かせ、子どもの幸せを積極的に実現するために、最もふさわしい生活の場のひとつでなければなりません。そのためには、一人ひとりの子どもを愛し、受け止め、見守りながら、大事に育てる保育をしたいと思います。子どもは笑顔が一番です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月23日（月）
担当者 すずらん保育園 石間 利恵

おはようございます。すずらん保育園長の石間です。

保育園では、月に一度、消火避難訓練を実施しています。火災や地震の想定で、時間や出火場所などを変えながら、どんな時でも落ち着いて行動ができるようにしています。

避難の時の合言葉は『おはし』。前の人を「おさない」「はしらない」「おしゃべりをしない」という、小さな子にも分かりやすい言葉で教えています。

危険を知らせる非常ベルの音は、大人が耳にしても緊張が走りますが、子どもたちは訓練を繰り返すことで、普段と違う雰囲気を感じ取り、口に手を当てたり、頭を押さえて体を丸くしたりと、自分の身を守ることを少しずつ覚えていきます。幼い0歳児でも、保育士におんぶや抱っこをされながら避難ができると、安心した表情を見せます。

災害は、いつ、どこで起きるか分かりません。

7時30分から18時30分、延長保育になると19時30分まで開園し、たくさんの方の大切な命を預かる保育園では、保育士は、いつでも指示に頼ることなく、冷静に状況を判断し、迅速な対応をとれるよう意識を持ち続ける必要があります。そして、何が起きても大丈夫と思えるように、常に非常時に備えた心の準備をしておくことも大切になります。

一人一人の心がけとともに、職員間での意思疎通を図りながら、今日も子どもたちが安心して過ごせるようにしたいと思います。

声のかけ合いは、心の架け橋です。1日の始まりに、笑顔で挨拶は、とてもうれしいものです。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月24日(火)
担当者 稲穂保育園 大内 文子

おはようございます。稲穂保育園長の大内文子です。

私は来年3月で定年を迎えます。長い保育士人生には嬉しい出会いがたくさんありました。

7月、小学校が夏休みになると、卒園した子どもたちが次々と遊びにやって来ます。『なつかしいな』『勉強なんか、つまんないよ』、わざと悪ぶった口調で背伸びをしている子が、保育士とのおしゃべりで、帰る頃にはすっかり昔の素直な表情に変わっていきます。

ある日は、大学生になった教え子が『先生みたいな保育士になりたいくて、今、勉強しています。』と、実習生としてやって来ました。保育士になる夢を語るその姿に昔の自分を重ね、とても嬉しくなりました。

そしてまたある日、『お久しぶりです。僕のことわかりますか?』『あれ~Kちゃん?』そこには25年前の懐かしい顔がありました。『先生、今度は僕の子どもがお世話になります。』Kちゃんにそっくりな男の子を連れた姿は、もうすっかり優しいお父さんでした。

保育園は、卒園したら終わりの場所ではありません。私たち保育士が子どもたちを慈しみ、保護者との信頼関係を築くことで、良い思い出として子どもたちの心の中に住み続けることができます。そして、懐かしいだけでなく、再び人をつなぐ場所として地域の中に存在します。

これから北広島市は、ボールパークの設立と共に全国に名前が知られる街に変わろうとしています。そんな変わりゆく街を支えていくのは、保育園に通っている小さな子どもたちです。子どもたちがこの街でたくさんの夢を持ち、街を誇りに思い、大人になっても住み続けたいと思えるように、私たちも応援していきます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月25日(水)
担当者 庶務課 中居 直人

おはようございます。建設部庶務課長の中居です。

建設部庶務課では、国や北海道の建設事業に係る連絡調整に関すること、事業用地の取得や補償に関すること、治水関係団体に関することなどについて業務を行っております。これら庶務課の業務の多くがコミュニケーション能力をそれなりに必要とする業務であり、特に事業用地の取得に係る業務に関しては、その最たるものであると思っています。この業務は華々しい面はあまりありませんが事業等を遂行する上で、最初にクリアしなければならない重要な関門であります。同時に当たり前にこなすことが求められるなかなかプレッシャーのかかる業務でもあり、日々、庶務課のスタッフはこういったプレッシャーと闘いながら業務をこなしております。膨大なペーパーワークがあるわけでもありませんし、時間外の多い業務でもありませんが、この点については、是非、皆さんにご理解をいただければと思っております。

ここで少し話は変わりますが私が入庁したのは30数年前であります。最初の配属は税務課住民税係、今の税務課市民税担当でありました。この住民税係は前年の11月、年末調整の説明会準備に始まり、給与支払報告書の整理、確定申告を経て、そのまま住民税賦課事務をこなしていくといった状態で、新人が職場に配属となる4月には先輩達も数か月にわたる残業で疲労もたまり、新人に事細かに業務を説明できる状況では無くなっているといった感じでありました。

当然、職場で特徴、普徴と言われても何のことか解からず、先輩にナンバリングを持ってきてくれと言われても、なぜ職場でゼッケンがいるのか？といったように職場において交わされる言葉を全く理解できていない状況でした。

そんな新人の頃に先輩からもらったアドバイスでその後の役所人生において、とても為になったと思えたものを若い職員の皆さんにお伝えしたいと思います。一つ目は「庁舎の中で会う人みんなに挨拶をなさい。」二つ目は「挨拶は相手の目を見て、相手に聞こえるようになさい。」というアドバイスであります。

最初のアドバイスは、役所の中で会う人、全てが先輩若しくはお客さんであるのだから挨拶をすることに間違いはないということ、次のアドバイスは挨拶をする以上、相手に伝わらなければ意味がないということでもあります。

当時の私は、何も解からない状態でもありましたし、そんな自分にできるのはこ

んなことぐらいしかないと思い、気恥ずかしい気持ちもありましたが、当時これを励行しました。おかげで役所の中で職場も違い、接点もなかった先輩方に顔を覚えて頂くことができ、仕事をしていく上で何度となく、助けて頂きました。

我々仕事をいろいろとこなしていく上では周りに知っている人が多くなるととてもスムーズに進めることができるようになります。また、挨拶をすることにより人前であまり気おくれせずに話ができるようになったように思います。

ぜひ、若い皆さんには自身のコミュニケーション能力向上のためにも実践していただきたいと思ってお話をさせてもらいました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月26日(木)
担当者 ボールパーク施設課 中垣 和彦

おはようございます。ボールパーク施設課長の中垣です。

ボールパーク施設課は、今月出来た新しい課であります。新球場の開業までの時間が限られていることからスタートダッシュが重要であると考え、日々の業務に取り組んでいるところです。

ボールパーク施設課の主な仕事はボールパークに関連する道路や公園の整備など、インフラ整備に関する業務であります。

アクセス道路の整備にあたっては、ボールパークへの来場者がスムーズに通行できるように、最適なルートを選定や、交通量に基づく道路幅員の決定、交差点形状の検討を行っているところです。

これらの道路計画の策定は北海道開発局や北海道などの関係機関と協議を行いながら進めており、各関係者の協力の元、市民や来場者の方々に満足していただけるような道路を整備したいと考えております。

札幌方面へのアクセス道路として計画している、ボールパーク候補地から大曲榎山線までのルートについては、野幌原始林の横を通ることから、自然環境に配慮し事業を進めていきます。

来月から来年の7月までの1年間をかけて実施する環境調査については、植物や両生類、昆虫類、鳥類の調査を行います。

レッドリストに掲載されている希少種が確認された場合は、線形の変更や、工事時期に配慮するなどの保全対策を行い周辺自然環境への影響を最小限にとどめたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月27日（金）
担当者 建築課 中島 秀男

おはようございます。建築課長の中島です。新庁舎に引っ越してから早くも1年以上が経過しました。階数や配置により温度の違いは多少あるようですが、私が30年以上慣れ親しんだ旧庁舎と比べると、格段に良好な環境にあり、この夏を涼しく快適な環境で仕事ができることを感謝しています。

さて、庁舎に限らず建物を建てる時には、建築基準法などの法令に基づく一連の規制をクリアしなければなりません。皆さんは建築確認申請という言葉は一度は聞いたことがあると思いますが、住宅など建物を建てようとする時に、必ず着手の前に必要となる手続きです。この手続きを怠ると、手続き違反となるばかりか、建物の用途や規模、配置によっては、建ぺい率や容積率、外壁後退などの実態違反、いわゆる違反建築物の扱いとなることもあります。また、あまり意識したことは無いかもしれませんが、敷地内に車庫などを増築する際も確認申請の手続きが必要となります。法令上10㎡を超える建物の増築を行うときも、この手続きが必要となりますのでお気を付け下さい。ただ、商業地域などの準防火地域に指定されている区域では、たとえ1㎡の物置などの増築であっても確認申請の手続きが必要となりますのでご注意ください。

このように、建築基準法は専門過ぎて分かりづらいと思われる方が多いと思いますが、必要な手続きなので、建物を建てる計画がある場合は、まずは建築課にご相談いただければ、むずかしい法令の内容を、建築士の資格を持ったスタッフが優しく分かりやすくご説明いたしますので、お気軽に窓口にお越しいただければと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月30日（月）

担当者 都市整備課 新田 邦広

おはようございます。都市整備課長の新田です。

都市整備課では現在、道道栗山北広島線と市道あゆみ通線との交差点改良も含めた、庁舎周辺の外構工事を実施しております。来庁される市民のみな様には、大変なご不便とご迷惑をおかけしております。工期は、11月30日までとなっておりますが、少しでも早く完成させるため鋭意努力してまいりますのでご協力を願いたします。

さて、都市整備課は、市道の整備や改築、公園の更新及び維持管理、緑化推進に関する事業を行うなど、まちを形成する空間づくりに日々奮闘しています。

多岐にわたる業務の中から、今日は、施設を造るという視点でお話をさせていただきます。

私は昭和63年度に当時の広島町に入庁して、今年で30年を向かえましたが、その多くを、道路、公園、上下水道施設などの建設事業に携わってきました。

入庁当時のことを思い起こしますと、カラーコピーがまだ普及していない時代で、かなりの時間をかけて補助申請用の路線図を色鉛筆で書いた記憶があります。設計書の作成もすべて手書きによるもので、間違いを発見して肩を落とし、はじめから書き直すなど、今思えば考えられないほど不便な時代でありました。

現在では、積算システムの導入など、当時から比べると格段に効率化が図られましたが、その一方で、自動化が進み、手作業のときは解っていたことが、解らないまま形になってしまっていることが多くなっていると感じています。「決まり事」と片付けず、「なぜ、どうして、どんな経緯で」と、その真相を知りたいという探究心を持ち、その知識をもとに臨機な対応へとつなげていくことが、これから大事になっていくものと感じております。

スピードと質の両方を求められる大変な時代ですが、計画から完了検査までと、形になるまでのすべてに関わることができる職業であるということに自負心を持ち、後世に引き継ぐ施設を造ることという責任を自覚しながら、これからも若い職員の皆さんと一緒にものづくりに携わっていきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 平成30年7月31日（火）
担当者 農政課 砂金 和英

おはようございます。経済部農政課課長の砂金和英です。農政課の仕事は、第一次産業に関わる仕事で、少し分かり易くお話しすると、農業振興対策、農用地の利用調整、経営の強化対策、担い手の育成、各種補助事業の事務、国などの制度資金の事務、技術の普及・奨励、土地改良、災害を防ぐための排水機場と排水路の維持管理、農作物被害の予防・調査、農業団体との調整、農業委員の任命、有害鳥獣対策、食育、グリーンツーリズム、六次産業化、そのほか森林に関する仕事を担当しております。日々、空を見上げ、大地と人と語らい、市場・経済とも向き合いながら、総勢7名となる主査とスタッフで本市の第一次産業のお手伝いをさせていただいているところであります。本市は寒地稲作発祥の地として、明治の中頃は600Haを超える水稻が作付けされており、北海道一の作付面積を誇っていたところがあります。現在は、レタス、ブロッコリー、大根、長ネギ、馬鈴薯などの生産量が多くなっております。

また、グリーン・ツーリズムでは、野菜直売所、農作業体験、農村レストラン、ジェラートやお菓子の加工・販売、おにぎりやハム・ソーセージの加工・販売など30を超える施設で取り組まれており、年間およそ60万人のお客様にご利用いただいているところであります。

その中には、北広島市でなければ味わうことができない旬のものや、北広島市でなければ体験できないことがあります。市民の皆様、職員の皆様には、日々の食卓のどこかに地元農産物をお使いいただき、そしてお出かけの際には、ちょっと寄り道をしていただき、非日常の体験をしていただきたくお願いをするところであります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。